

年内利下げ予想維持のFOMCを市場は好感



シニア・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① 年内利下げ予想維持となったFOMC

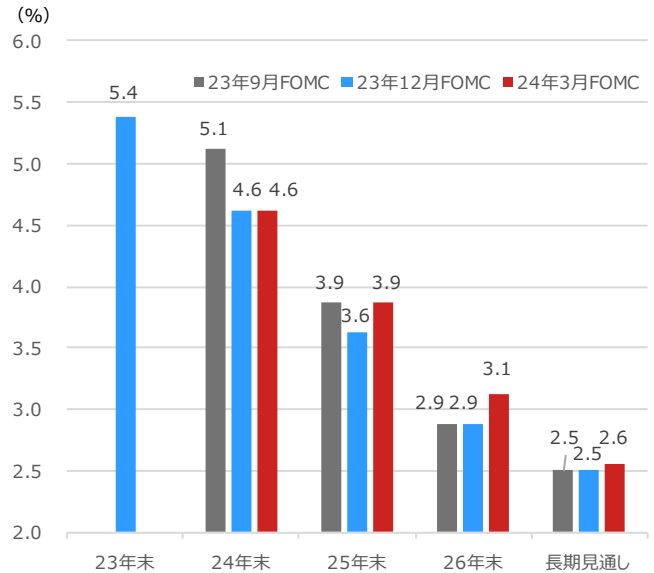
FRB（米連邦準備制度理事会）は19～20日に開催したFOMC（米連邦公開市場委員会）で、最新の経済見通しを発表し、24年の利下げについて0.25%ポイントを3回としていた前回予想を維持しました。一方、25年、26年については、最近のインフレ上振れを受けて利下げ予想回数を減らした形です（右上図）。高金利政策が続く中でも、米経済が想定以上に堅調さを維持していることもあり、同見通しでは、24年10-12月期の米PCE（個人消費支出）コア物価指数（エネルギーと食品を除くベース）の前年同期比上昇率が、前回の2.4%から2.6%に上方修正されました。

ポイント② 利下げ慎重姿勢示すも市場は好感

24年10-12月期のGDP（国内総生産）成長率も前年同期比2.1%増（前回は同1.4%増）に引き上げられており、FRBの利下げ開始は後ずれする可能性が高まりつつあるようにみえます。FRBのパウエル議長は会合後の記者会見で、6月までのFOMCで利下げを開始するかとの質問に対し、直接的な言及はせず、「年内のある時点」という従来の見解を維持するなど、今後のデータをみながら慎重に利下げを判断する姿勢を示した格好です。

今回のFOMCでは参加者19人中9人が年内3回の利下げを見込む一方、2回以下とした参加者も9人おり、利下げを巡る予想は割れています。ただ、24年の利下げ回数予想（中央値）の減少を警戒する向きもあった中で、同予想が前回から維持されたことが市場に安心感を与え、S&P500種株価指数は最高値を更新しました（右下図）。当面は、物価の上振れが一時的なものにとどまり、再び鈍化傾向となるかが市場の焦点となりそうです。

FOMC参加者金利見通し（中央値）の3時点比較



期間：2023年末～2026年末、年次、および長期見通し
 ・FOMC参加者金利見通しは2023年9月FOMC、同12月FOMC、2024年3月FOMCで示された目標レンジ中央値
 ・2023年12月FOMCの23年末は実績値
 （出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

FF金利の24年末時点の予想水準とS&P500種株価指数



期間：2023年10月2日～2024年3月20日、日次
 ・FF金利はフェデラルファンド金利
 ・FRBが予想する24年末のFF金利中央値は2023年9月FOMC、同12月FOMC、2024年3月FOMCで示されたFF金利予想値を用いた
 （出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一の見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。